

## 第4回 NPO 等意見交換会 議事録

テーマ:環境と共生する住まい・まちづくりについて

日時:12月15日(水) 13:30～

場所:あいちNPO交流プラザ大会議室

参加者:NPO等11名、マスタープラン検討委員2名、行政8名

### 第1部 グループワーク結果

#### ■省エネ住宅・環境共生型住宅の普及

##### ○住まい手への普及促進

<b>見える化する(住宅LCCの見える化、見える化シート義務づけ、無料環境評価の実施)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・住宅のLCCと3R(リサイクル、リユース、リデュース)を見える化する。</li><li>・住宅購入プランで見える化シートを義務付ける。</li><li>・確認申請にあわせて、建物の無料環境評価サービスする。</li></ul>
<b>環境共生住宅導入におけるメリットを伝える</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・自分たちにどれだけメリットとして返ってくるかわかるようにする。</li><li>・我慢するだけでなくメリットが受けられる仕組みづくり。</li><li>・省エネ性能の高い住宅がどれだけ地球温暖化防止に結びつくか、試算がないので取組みが目的意識に欠ける。基準・ビジョンを設ける。</li></ul>
<b>省エネ設備の導入における補助をおこなう</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ設備の導入促進補助。</li></ul>

#### ○NPOや有識者と連携した環共共生型住まいづくりの推進

<b>NPOによる環境共生住宅の普及活動を支援する(イベント告知等の連携、ネットワークづくり)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・NPOで環境共生住宅の普及に努めている。告知等で行政と連携するなど、NPOの横断的ネットワークづくり。</li></ul>
<b>専門家における技術・ノウハウの蓄積</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・専門家による環境問題への取組みを強化し、自然エネルギー活用の技術・ノウハウを蓄積する。</li></ul>

#### ○ONPO、有識者、住まい手への学習機会

<b>環境共生住宅に関する学習の場をつくる(住まい手・NPO・専門家の教育、ワークショップの開催)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネの学習環境を作る。</li><li>・住まい手やNPO・専門家まで教育を。</li><li>・住まいの環境性能表示制度を住宅ワークショップで考える。</li></ul>

#### ■住まい方・ライフスタイルの転換

<b>ハードからソフト重視への価値観を転換する</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・長寿命化は部材や装置だけでなく住まい方の視点も必要。</li><li>・ハードとソフトという考え方で、建物の省エネ化とともに住まい方の省エネ化を。</li><li>・長寿命住宅を作っても、将来住む人に受け入れられるのか分からないため、ハードに頼るよりソフトで勝負。</li><li>・夏冬共にエアコンを殆ど使わない住宅も可能なので、そうした家作りの普及を進める。風の通りを良くして夏の湿気に対応した住宅作りや、屋上緑化、断熱材を使用するなど、作り方と住み方をセ</li></ul>

ットにする。
<b>住まい手の意識改革をおこなう(自然に負けない体作り、ほどほどな快適環境への適応)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・贅沢に慣れた生活スタイルを改め、大人も子供も自然を相手に体作りを促す街作りが必要。</li> <li>・ほどほどな快適環境によって人は活きる。</li> </ul>
<b>新たな住まい方を推進する(ライフスタイルに合わせた住み替え、二・三世帯住宅、大家族化)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まい方を検討し、住み替え等によってライフスタイルに合わせた住宅を選択できるように。100年同じ人は住めないの、住む人が変わっても使える家にする制度を。</li> <li>・人それぞれの生活スタイルに合わせた住み替えを行っていく。</li> <li>・住み替えしやすいシステム作り。</li> <li>・二・三世帯住宅を作り、まとまって住む。高齢者の住んでいた個人住宅の空き家を若い人に貸すリユース。</li> <li>・混ぜて暮らす新しいライフスタイルの提案。大家族化の住宅を進める。</li> <li>・どんな住み方がしたいのか？皆で考えよう。</li> </ul>

## ■地産地消の推進

<b>県産材を利用し(PR、ブランド化)、地域林業を活性化する</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業(一次産業)を活性化させ、その収入で暮らしていくモデルを提案する。(山間部での若年労働者の確保にもつながる。)</li> <li>・林業経営の健全化のため、行政や民間で県産材の積極的購入。(木材の加工は県内でできない。)</li> <li>・木造住宅は長持ちする。かつ、木材(柱や梁)は再利用可能。</li> <li>・地域資源のPR、ブランド化。</li> </ul>
<b>地域の自然エネルギーの利用(太陽光、風力、バイオマスの利用助成、スマートタウンの推進)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エネルギーの地産地消」へ向けて太陽光・風・バイオマス利用への助成。</li> <li>・共同で自然エネルギーの活用</li> </ul>

## ■長期優良住宅

<b>長期優良住宅認定制度の改善(県独自の制度創設、地域に合わせた選択基準項目の導入)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の認定基準ではなく、県独自の制度も創設する(市民本位のしくみ)</li> <li>・長期優良住宅をタイプ別にする(高気密・高断熱タイプ、伝統タイプ、パッシブタイプなど)</li> <li>・個別の選択基準項目を取り入れた認定制度の導入。現在の制度は使い勝手が悪いので、例えば地域別に、静かなところでは防音基準を変えるなどする。</li> <li>・制度の改善が必要。建てるだけでなく、メンテナンスのことも考えた制度を。</li> </ul>

## ■緑化、緑の保全

<b>森林を保全する</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源として使える三河の森を守る。</li> </ul>
<b>身近な緑の保全・緑化を推進する(緑化義務づけの対象拡大、森と緑づくり税の活用、公園管理の柔軟化)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化地域における緑化の義務付け対象敷地面積 300 m<sup>2</sup>以上を廃止し、規模が小さいものも全部対象にする。</li> <li>・森と緑づくり税による緑化支援。</li> <li>・緑化や緑の保全(都市レベルから身近なレベルまでの空き地、風の道をつくる)。</li> <li>・公園管理を柔軟化して、県民が楽しみながら緑化を進められる仕組みを作る。</li> <li>・住宅地には一定の割合での緑地帯が必要。</li> </ul>

## ■まちづくり

<b>新しい「あいち」モデルをつくる(車の進化、カーシェアリング等の充実、スマートグリッドの推進)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・愛知型コンパクトシティ(コンパクトに住むコミュニティ作り。例えば、進化させた車を活用したまちづくり等)</li><li>・カーシェアリング、サイクルシェアリング、電気バス、オンデマンドバスの充実。</li><li>・都市計画におけるスマートグリッドの推進。</li></ul>
<b>自動車に過度に依存しないライフスタイルの推進(自転車利用促進、パークアンドライド)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・なるべく自動車に乗らない。</li><li>・自転車利用の促進、自転車道の充実。</li><li>・自動車に依存しないライフスタイルとまちづくり。</li><li>・公共駐車場や民間駐車場を活用したパークアンドライド。</li></ul>
<b>まちぐるみでの環境共生への取組みの推進(コミュニティ単位での表彰、キャッチフレーズづくり)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・まちぐるみで環境にやさしい取組みを表彰する。</li><li>・コミュニティ活動のキャッチフレーズを作り、同じ取組み方向を向いてもらう。</li><li>・CO2削減をまちぐるみで波及させる。</li><li>・自然エネ活用は他人に任せず、まちづくりの課題として進める。</li><li>・一人ひとりのお徳感が全体のお徳となるような仕組みづくり。</li><li>・エゴ住宅を少なくする。</li></ul>

## ■情報・相談

<b>情報の共有、公開をおこなう(環境への優良な住宅のPR, 制度・イベントの告知)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・環境に優しく住みやすい住宅をPR。</li><li>・情報共有。(よい制度の利用方法・イベント告知など)</li><li>・エコキュートなどの省エネ機器を国の補助で普及させた後、地域行政がその状況を情報公開する仕組み。(エコキュートはナビを付けているが、結果が行政に報告されていない。データが使われていない。)</li></ul>
<b>長寿命化やリフォームに関する相談窓口の設置</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・長寿命化やリフォームなどの総合相談窓口設置。</li><li>・長期継続的なメンテナンスが大事。メンテナンス相談制度の充実を図る。</li></ul>

## ■その他

<ul style="list-style-type: none"><li>・新エネルギー産業と住宅をミックスさせる。(太陽光、風力発電等の活用)</li><li>・省エネ住宅は行政でできることはあまりないので、市場に任せるしかない。</li><li>・高層住宅は10階を限度としてはどうか。</li></ul>
--

## 第2部 有識者等との意見交換

### 有識者からのご意見

#### 【環境負荷低減】

- ・ CO2 削減に対するお徳感がないといけない。
- ・ エコロジーはエコノミーとの意識で、健康や快適利便性が高ければ必然とエコ活動になる。そういった仕組みを作る為には税金の使用も必然である。
- ・ 補助等の話があるが、制度やルールを今に合わせることに力を入れるべきだ。制度を使いやすくすることは、どちらかという行政の役割ではないか。
- ・ 地球環境問題をCO2だけに矮小化しすぎるのは良くない。あるべき論なのか、実効性があるのか、現状はどうなっているのかをよく考えるべきである。愛知型という話があったが、慎重に特徴を捉え精査する必要がある。
- ・ 今すぐ実現可能な事と、大きな仕掛けが必要な長期スパンで実施すべき事とがある。日本の社会構造は今後ダイナミックに発展していくので、何が長期スパンでの実施が必要か仕分けをする必要がある。

#### 【交通と都市構造について】

- ・ 交通と都市構造の問題についても推進する機関の考え方に大きな問題がある。3つの面から考えなくてはならない。
- ・ 1つには、電気自動車になればCO2を排出しないので車を積極的に使用しても良いという意見があるが、これは間違いで、電気自動車へ電力を供給する発電所ではCO2が発生している。今の段階では、電気自動車とガソリン自動車のCO2の排出量は変わらない。
- ・ 2つには、自動車を使える人は便利に過ごせるが、使えない人達も大勢おり、全ての人々が自動車を自由に使用できる前提で物事を考えるのは宜しくない。
- ・ 3つには、自動車で人口数十万人の都市を支えようとする、都心部に片側10車線の道路を作っても不十分である。一定規模以上の都市を自動車を中心に構造立てようとする、非常に難しい問題になる。日本の場合には、公共交通・自転車・徒歩と自動車をどの様に組み合わせるかのバランスが大切である。今までは自動車中心に都市を構築してきたが、単純に電気自動車をつくれればよいわけではない。

#### 【県産材の活用について】

- ・ 三河山間部の樹木は一番切り時（間伐材）であるが、木を切る人がいない状況にあるため外に出せない。
- ・ 岐阜の森林行政が進んでいる。愛知県は、製材の体制を持っていない。東三河の人口が著しく減少していることも、オーバーラップしている。

#### 【NPOとまちづくりについて】

- ・ 地域とは様々な考え方の異なる人が一緒に住んで、その地域をどうするか考えていく、その仕組みが自治会である。地域を越えて同じ思いの人が何かをするというのがNPOである。両方の側面でものごとが動いていく。
- ・ 自治会とNPO組織やボランティア組織等をどう共存させるかがどこも大きな問題になっている。（先進事例：ユウカリが丘（千葉県佐倉市）の団地マネジメント）
- ・ 拡大成長型はトレンドを先読みしてトップダウンで強制的に実施してきたが、これからは成熟社会・衰退社会であるので、地域をベースにし、特徴を捉えて対応する必要がある。日本は未だ自治会・町内会の立場が強いので、それらを近代的にし、行政や企業が支える新しいモデルを立ち上げ

る時期。

#### 【パブリックコメントの方法等について】

- ・ 案が出来てから策定までの住民参加が非常に弱い。
- ・ パブリックコメントが機能していないのが懸案事項である。
- ・ 米国では、案が出たらパネルに出して市民の意見を聞く。また、ロードショーという歩行者天国にパネルを貼る事で意見を求める活動もある。県は大きいので取り纏めが大変だが、代表的な地域で対策をして頂きたい。

#### NPO 等参加者からのご意見

- ・ 愛知県で県産材といわれている木材が実際は岐阜産が多く、岐阜がかろうじて生き残っているように思う。そうすると現実的には三河の木は矢作川を使っていると思う。
- ・ 地域活動を活発にしようとするとなPOの様な専門家が必要だが、実際に暮らしている住民の方々の意見も反映させるべきではないか。
- ・ NPOが根無し草にならないように、地域というベースを持った方が良い。その意味でも NPO だけではなく、地域（自治会・町内会）の意見も聞いて欲しかった。
- ・ 意見交換会での結果をマスタープランに反映させる期間中に、タウンミーティングは開催できないのか。
- ・ パブリックコメントは、市民が参加するのはやり方が分からないし、大変なので、講習会（レクチャー）という形を採って意見があれば発言するというのは如何か。